

# 株式会社ヘルスケアシステムズ



企画・販売する様々な検査用パッケージキットのイメージ



(左より)  
商品企画部 奥津 咲子 様  
商品企画部 部長 福士 碧沙 様  
総務部 部長 梯 智紀 様

## 会社概要

- 本社所在地:〒464-0858 愛知県名古屋市千種区千種2-22-8 名古屋医工連携インキュベータ105
- 東京支社所在地:〒105-0004 東京都港区新橋4-6-15 日新建物新橋ビル7階
- 従業員数:30名
- 事業内容:郵送検査事業、バイオマーカー、検体検査技術の研究開発、機能性食品の研究開発
- URL:<https://hc-sys.com/>

か不安がありましたが、多様なツールを使い分けることで解決できました。例えば、シンプルな情報伝達や即時性がある連絡はチャットツール、細かいニュアンスを伝えたい時は電話、複数の社員と情報共有したい時はWeb会議を活用しました。チャットツールで相手側の業務の状況を確認してから、電話をかけるというケースもありました。

## 全社員でテレワーク実施状況を把握し、生産性の向上につながることに期待

テレワークを制度化しても、テレワーク実施者と社内の社員との間に認識の違いが発生しては導入が進みません。実際、社内にいる社員から、デザイナーが在宅勤務を行っている日は、欠勤なのか、外出中なのか、在宅勤務中なのか分からないという声が挙がりました。そこで、周囲を和ませるイラストが書かれた「テレワーク中」というホワイトボードを席に置くようにしたところ、会社全体で在宅勤務への周知が進みました。また、営業担当の社員が行ったモバイル勤務においても、資料作成、メール対応業務を外出先のカフェや愛知県名古屋市の本社に向かう新幹線移動の時に、時間を有効に活用できました。この成果を基にテレワークを制度化するこ

とで、8名いる営業担当の社員の一人ひとりが、効率的に業務を行えるように工夫していくことを期待しています。

## モデル実証を終えて

## 公平な制度化のために課題を検証 2019年度の本格導入を目指す

モデル実証事業では、デザイナーや時間の制約がある営業担当の社員がテレワークを行い、テレワークの効果を実感しました。制度化に向けて対象者拡大を視野に入れ、次は経理等のバックオフィス業務を検証していきたいと考えています。また、検査施設で検査・分析を行う社員は、衛生検査場の届け出をしている場所での業務を義務付けられているので、物理的にテレワークが難しいです。全社員に不公平感が生じないよう、検査・分析を行う社員に配慮し、特別有給休暇といった別の制度も並行して検討する必要があります。このような課題を議論しながらテレワークの制度化を推進し、2019年度早期の本格導入を目指しています。現在のオフィスも手狭になっているので、3年以内にオフィス移転も検討しており、テレワークには省スペース化の効果も期待しています。

## 経営課題

# 働き方の選択肢を増やし雇用継続と人材の確保へ

## 解決ポイント

## 誰もが活用できる制度にするため デザイナーと営業担当の社員でテレワークを検証

### 育児中でも働き続けられる 制度にするためテレワークを検証

当社は、名古屋大学農学部発のベンチャー企業として、食品機能性の研究を行ってきました。主幹事業の郵送検査は、法人・個人のお客様から検体を郵送していただき、測定した結果をお客様へ返送するものです。未病段階のカラダの状態を知り、生活習慣の見直しを促す目的で、検査用パッケージキットを、ドラッグストアでの販売や、病院での健康チェック等に展開しています。女性をターゲットにしたものがメイン商品ということもあり、全社員30名のうち19名が女性です。社員が出産・育児と仕事を両立できるよう、テレワークを制度化したいと考え、モデル実証事業に参加しました。

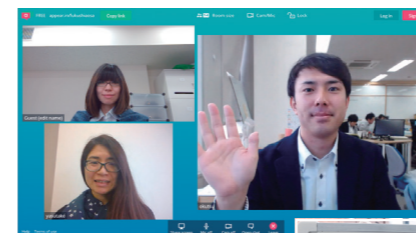
### 業務内容と家庭環境により人選 業務に合ったテレワーク環境を用意

モデル実証事業では、広報物や商品パッケージ等の制作業務を担当するデザイナーが在宅勤務を週1回行い、育児・介護による時間の制約がある営業担当の社員が在宅勤務及びモバイル勤務を行いました。実施者の業務は、それぞれ性質が異なるため、貸与した機器やサーバーへのアクセス方法、セキュリティ面でのルールが異なります。デザイナーは大容量のデータを扱うクリエイティブな作業

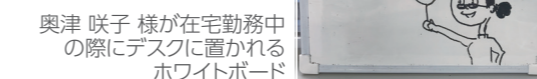
が多いため、ノートパソコンではスペックが低く画面も小さいと判断し、メモリーや液晶モニター、ペンタブレットを用意しました。運用はリモートデスクトップ\*を使用し、自席のパソコンにアクセスして、ローカル上にはデータを保存しないことで、セキュリティを確保しながら作業ができるようにしました。また、リモートデスクトップ\*により、クリエイティブ作業に必要な写真・デザイン加工ソフトを新たに用意せず、自席のソフトを遠隔で使用することができました。一方、営業担当の社員は、外出することが多いため、会社パソコンを持ち出し、VPN\*経由でサーバーに接続することで、必要なファイルを取り出して資料作成を行いました。共通ルールとしては、始業時と終業時にチャットツールで報告することです。使用したツールは、チャットツール、Web会議で、従来使っていたものを継続利用しました。複雑なデータ加工を行い、関係者との密なコミュニケーションが必要なデザイナーと、時間の制約がある営業担当の社員によるテレワークの違いの検証をしました。

### 集中力が高まり、業務効率が向上 ツール活用でコミュニケーションも検証

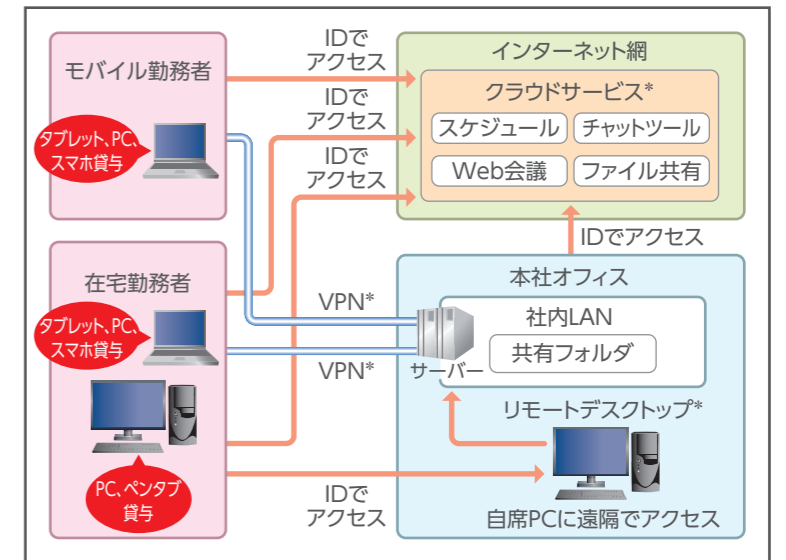
制作業務を担当するデザイナーの在宅勤務では、外線電話や来客対応がなく作業に集中できるため、サーバー内のデータ整理やライブラリー作成の業務も効率良く実施できました。また細かいニュアンスを含むコミュニケーションができる



Web会議を使用し、3拠点で打合せを行う様子



奥津 咲子 様が在宅勤務中の際にデスクに置かれるホワイトボード



## 経営課題

- 優秀な人材の継続雇用、長期雇用を実現したい
- 全社員が活用できるテレワークの模索

## 導入概要

- デザイナー1名、営業担当の社員1名の計2名を選定
- チャットツール、Web会議を活用
- 各々の業務に合わせ、デザイナーは自席のパソコンにアクセスするリモートデスクトップ\*を、営業担当の社員は会社パソコンを持ち出し、VPN\*経由でサーバーにアクセスする方法で検証

## 導入効果

- 在宅勤務での集中できる環境による業務効率の向上
- 目的に応じた多様なツールの使い分けによるコミュニケーションの円滑化
- リモートデスクトップ\*やVPN\*利用によるセキュアな作業環境を実現

## ADVICE

コンサルタントからのアドバイス



モデル実証事業では、広報物等の制作業務を担当するデザイナーと育児・介護による時間の制約がある営業担当の社員2名が取り組みました。業務が異なる社員を選定することで、課題とメリットをより顕在化することが可能となりました。テレワーク導入を検討中の企業は、最初から全社員を対象にせず、テレワークで効率化を図りたい職種から検証を行い、成果を拾いながら徐々に広げていくことがお薦めです。それにより得られた成果や課題を共有し、テレワークの理解を深めるための研修会や説明会を行うこともポイントとなります。

注釈(\*)の用語解説はP57をご覧ください。